# 第 6回総会

* **概要**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 期間 | 2006-09-12~ 2006-09-15 | |
| 開催地 | 大韓民国 > 釜山広域市 | |
| 開催者 | 大韓民国 > 釜山広域市 | |
| 参加 | ５ヶ国48自治体 | |
| 中華人民共和国 | 黒龍江省、山東省、河南省、寧夏回族自治区、湖北省、山西省、遼寧省 |
| 日本国 | 新潟県、富山県、兵庫県、島根県 |
| 大韓民国 | 釜山広域市、大邱広域市、京畿道、江原道、忠清北道、忠清南道、全羅北道、全羅南道、慶尚北道、慶尚南道 |
| モンゴル国 | 中央県、セレンゲ県、ウランバートル市、ドルノド県、スフバートル県、ヘンティ県、ドルノゴビ県、ウムヌゴビ県、ボルガン県、ウブルハンガイ県、バヤンホンゴル県、アルハンガイ県、フブスゴル県、ザウハン県、ホブド県、バヤン・ウルギー県、オルホン県、ゴビスンベル県、ダルハン・オール県 |
| ロシア連邦 | ブリヤート共和国、ハバロフスク地方、アムール州、サハリン州、トムスク州、トゥヴァ共和国、アルタイ地方 |

* **内容**

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| |  | | --- | | **▷「記章制定委員会」推進経過の報告があり、同委員会でまとめた記章(案)にロシアのサハリン州の意見を反映して承認する。**  **▷NEAR諮問委員会の新設・運営については次回実務委員会で十分な検討と議論を経て第7回総会にて議決する。** | |  | | **▷大韓民国京畿道が提案した「科学技術分科委員会」を承認し、コーディネート自治体は京畿道が務めることにする。** | |  | | |  | | --- | | **▷「国境地区協力分科委員会」コーディネート自治体をロシア連邦のアムール州に変更する。**  **▷中華人民共和国、大韓民国、モンゴル国、ロシア連邦に属する27自治体の新規加盟を議決する。**  **▷次回総会は参加自治体の総意をもって、2008年に中華人民共和国の山東省で開催する。** | | |  | |

* **釜山宣言 ―第６回北東アジア地域自治体連合総会**

2006年9月13日と14日、大韓民国釜山広域市において「第6回北東アジア地域自治体連合総会」が開催され、大韓民国、中華人民共和国、日本国、 モンゴル国、ロシア連邦から5カ国51会員自治体が一堂に会し、次のような共通認識のもとで北東アジア地域の発展に向けて努力することとする。

北東アジア地域自治体連合(以下「連合」という。)は、「交流と協力を通じた北東アジアの共同繁栄」を究極の目標として1996年に設立されて以来、経済・文化など様々な分野において実践的な交流・協力事業を推進し目覚しい成果を成し遂げてきた。

本年、10周年を迎えた連合が「平和と繁栄のグローバル化時代と北東アジアの時代」を切り開くリード役を果たすためには、会員自治体相互の協力を一層強化し、未来志向の発展策を講じるべきであることに認識を共にする。

こうした共通認識のもと、今回の釜山総会では「北東アジア地域の共同繁栄とNEARの役割」をテーマに、連合の知名度強化に向けた広範な議論が行われた結果、次のような提案が出され、その実現に向けて努力することとした。

１． 連合は経済協力の強化・促進策及び制度を継続的に打ち出すとともに、会員自治体間の相互補完性を大いに活用して交流・協力を一層強める。

２． 連合は各分科委員会の活動成果を共有し、分科委員会の所属団体のみならず全会員自治体が積極的に参加するよう努める。

３． 連合は会員自治体の国際行事の誘致努力に対して相互支援を行うとともに、他会員自治体の主な行事や交流協力プロジェクトに積極的に参加する。

４． 連合は黄砂の発生と被害の低減等北東アジアの環境問題に積極的に対応するため、環境にやさしい施策の共同推進及び協力策を講じるよう努力する。

５． 連合は総会が総合的な国際交流の場として位置づけられるよう、次回総会から開催期間中に多様な行事を開催することを議長団体に努める。

以上、我々は「北東アジア地域自治体連合」が北東アジア地域の平和と繁栄を実現する主役となることを宣言する。

2006年　9月　14日

第6回北東アジア地域自治体連合総会参加自治体代表